

みやま りんどう



令和8年度（2026年度）学校通信 第6号 令和8年9月24日発行

文責：近 藤 伸

啐啄同時 ～教育的タクト（応答力）響き合う心、育ちの瞬間（とき）を支援・伴走する上高～

上川高校の校庭にある木々が少しずつ色鮮やかに色づく季節となりました。保護者・地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

夏休みを終え1か月。一段と遅しくなった生徒たちの姿に、私たち教職員も身の引き締まる思いです。さて、9月に入り3年生は自分自身の進路を実現すべく、放課後も学校に残り、履歴書や志望理由書を作成したり、面接の練習をしたり、自らの力で未来を切り拓いていくための真剣な取組が見られます。

毎年この時期になると（特に3年生）、教師と生徒の間の「絶妙なタイミング」や「程よい間合い」について考え、「**啐啄同時（そつたくどうじ）**」という言葉が思い浮かびます。

「啐啄同時」とは、鳥の雛（ひな）が卵から生まれ出ようと殻の中から卵を突いて音をたてた時、それを聞きつけた親鳥がすかさず外から啄んで殻を破る手助けすることを意味し、「**啐**（もつ 学ぼうとする者）」と「**啄**（たく 教導く者）」が息を併せて教示を与えることの大切さを表し、教師と生徒のお互いの関係性とよく似ているといわれます。

「**啐（そつ）**」：雛（ひな）が卵の内側から、自分のくちばしで殻をつついて音を立てること。

「**啄（たく）**」：その音を聞きつけた親鳥が、直ぐに外側から殻をつついて破る手助けをすること。



教師は親鳥 生徒は雛（ひな） 自己反省の意味も込めて・・・。

教師は親心ゆえに、ついつい「早く助けてあげたい」ために、「ちゃんとやろう」「しっかりやろう」「きちんとしよう」等々、外から先に殻を破ってしまいたくなることがあります。しかし、雛（生徒）がまだ内側から突こうとしていないのに親鳥（教師）が外から壊して（仕掛けて）しまえば、雛は無事に生まれる（成長する）ことができません。

「早すぎてもいけない、遅すぎてもいけない」

この絶妙なタイミングで教師と生徒の心が響き合う時（**響同**）が、本当の生徒の成長に繋がるはずです。生徒が自ら殻を破ろうとする力（困難を乗り越えるために主体的に考える力）こそ教育の原点であって、それはいつの時代も変わることがなく、教師は生徒の「**自分で伸びていく力**」を信じて待つ。生徒は本来、誰もが「**自ら成長する力**」をその内に秘めています。その力を損なわず、大らかに伸ばしていくために、教師は生徒の育ちの瞬間をタイミングよく支援・伴走していく必要があります。進路実現をするために苦勞している生徒の姿を見て「啐啄同時」を感じる今日この頃です。

一人ひとりの生徒と「啐啄同時」できる上川高校。保護者・地域の皆様もご協力をお願いいたします。

10月			
日	曜	行 事	
1	木		
2	金		
3	土	オープンスクール・ミライフェス	
4	日		
5	月	振替休日(10/3)	
6	火	保護者面談週間(～9) 授業公開週間	
7	水		
8	木		
9	金	学校運営協議会 (CS) ②	▼
10	土		
11	日		
12	月	スポーツの日	
13	火		
14	水		
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水	職員会議	
22	木		
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

10/3 上高ミライ彩りフェスを開催します！



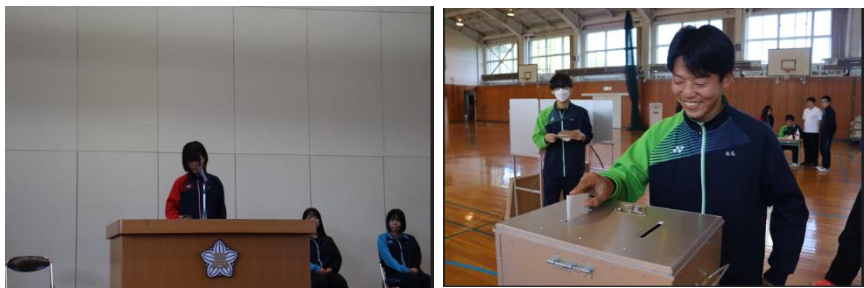
10月3日(土)に開催します。このイベントは、上高生が地域創生&再生をテーマに探究活動してきた成果を発信するイベントで、生徒が主体となって企画・運営する昨年に続き2回目の試みです。

当日は、子どもから大人まで楽しめる体験型ブースや展示、ワークショップが多数並びます。さらに、上川町の食材を活かした飲食物販売コーナーもご用意しています。

生徒たちが自ら考え、話し合い、形にした「未来への一歩」を、ぜひ会場で見届けてください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

先日行われた選挙の様子を載せました

校内選挙の様子です。通常の選挙に近い形での実施でした。この貴重な経験を今後の学びや卒業後の生活に活かしてくれると思います。



3年生屋上での写真撮影

最高の天気の下、思い出となる良い写真を撮ることができました。

